

平成28年度 第1回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 会議録

日 時：平成28年4月15日（金）

午後1時30分～午後2時30分

場 所：市役所 第3会議室

出席委員：横山貴子・小宮山洋子・勝又浩吉・渡邊恵子・小松豊・日吉桂大

勝間田和子・小宮山なほみ・山崎喜三・平野昭弘・湯山有朋

田口公士・勝又欣也・中川鈴代・根上英志・勝又文弘

アドバイザー：牛山教授（明治大学政治経済学部）

事務局：村松次長、勝又統括、鈴木主事、寺島主事

1 開 会

2 会長あいさつ

3 新任委員紹介

① 新任委員の自己紹介

② 教授より一言

③ 事務局の紹介

4 協議事項について

（1）平成27年度協議会事業報告及び平成27年度協議会収支決算について
（監査報告）

事務局より説明、承認。小宮山洋子委員より監査報告。

（2）平成28年度協議会事業計画(案)及び平成28年度協議会収支予算(案)
について

事務局より説明、承認

5 その他

・平成27年度市民協働型まちづくり補助金事業報告会 評価結果

・次回開催予定

6月2日（木）13時30分から 市役所 第3会議室

平成28年度第2回市民協働型まちづくり推進協議会

（第1回プラン見直しのための会議）

審査会の評価方法について

委員A：項目が多く、違いが分からない。時間がないのできちんとした評価ができず、大体のイメージで採点している。

委員B：自分の付けた点数を覚えていない。

委員C：報告会の時の方が審査会より採点が厳しい。

委員D：点数の評価が難しい。抽象的になる。細目を増やしたほうがいい。細かい項目があった方が分かりやすい。工夫の余地があると思う。

委員C：事前に資料をチェックしてから採点をしたら良いのでは。

委員D：聞いている間の評価が難しい。

委員E：団体が事務局にぎりぎりで提出し、調整等に時間がかかるので、事前の配布が難しい。

委員F：評価が難しい。

委員G：点を付けるので精一杯、総合的な評価ができていない。余裕を持って客観的に評価をしたい。

委員H：自分が担当する団体のイベントに参加した。冊子（報告書の資料）だけでも分かりやすいが、成果物がない団体はステージ発表など活動を見に行った方がいい、見ておくべきだと思った。一生懸命やっていることが分かる、冷静な目で見ると違う評価ができる。

委員I：プレゼンを聞きながら評価することは難しい。以前は審査される立場に居たことがあったので、団体からすると実際に観に来て評価して欲しいと思う。

委員J：可能であれば、審査項目を減らす。事務局で総合的な評価ができる項目を増やして欲しい。

委員K：項目を分担して審査をしたらどうか。

委員C：厳格に考えるとその時の感覚で採点している。

教授：人によって自分の中で優劣があり、順位を付けている。それが合計されて評価となっているので、人による差があってもよい。皆で審査会の評価を見ながら話し合い、市長が決定する前に第3者機関として、客観的にみて市長に示すという真摯な取り組みを続けていければ、意見交換をすることが重要。

委員L：評価を作成した時に携わっていたが、当時に比べて評価に対する姿勢が変わっていることは嬉しいこと。最後は市の決定となる。個人の意見、感覚は大事。

委員M：市民の意見をできるだけ取りあげることができれば。

委員N：補助事業と補助金事業はどう違うのか、毎回思う。

委員C：庁内推進委員を6月2日の審査会に招待したらどうか。

委員B：自分の中で基本が出来ていないので、自信を持って評価ができない。

委員G：審査用紙を1枚にしたらどうか。

委員B：順位を付けるのが評価ではない。

教授：点数を見比べることができるように審査用紙を1枚にしてもいい

委員C：指針で用紙が決まっている。

→実際は市民協働型まちづくり事業の手引き（平成19年3月）の中で審査用紙の形式が決まっている。

教授：総括表をつけたらどうか。

委員D：市民の問題に優劣をつけることについて、全ての得点を同一視するのではなく、特に問題の重要度に対する評価を重視してはどうか。

教授：その審査員が審査項目の事業評価やニーズ性の分野で高い評価を付けられればいい。

補助金対象経費について

委員A：備品のようなものにはどうして助成が付かないのか。地域ねこ活動で使用する捕獲用のケージなど、補助金の対象経費になると助かると思う。

教授：最初は認めていたが、事業が終わった後も団体の財産として残るため、あくまで事業費の補助。例えば、リース代を認めたり、合計金額で認めたりする、または備品になりそうなものを備品という形ではなくて申請するなどの方法がある。

委員K：備品は売却すると利益が発生するものと考えられるので市では認めていない。3年間補助金が申請できるのであれば、1年目（初期の段階）では一部を認めるということにしたらどうか。

6 閉 会

- ・審査用紙に総合的な評価ができる一覧表を付けるか、指針ではなかったので審査用紙そのものを変える。
- ・備品に対する経費について検討する。